

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況
 - (5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況
 - (6) 仕事と仕事以外の生活の調和
 - (7) 「福祉まるごと相談課」の認知
 - (8) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況
-

（1）「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

問33 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか（○は1つだけ）。

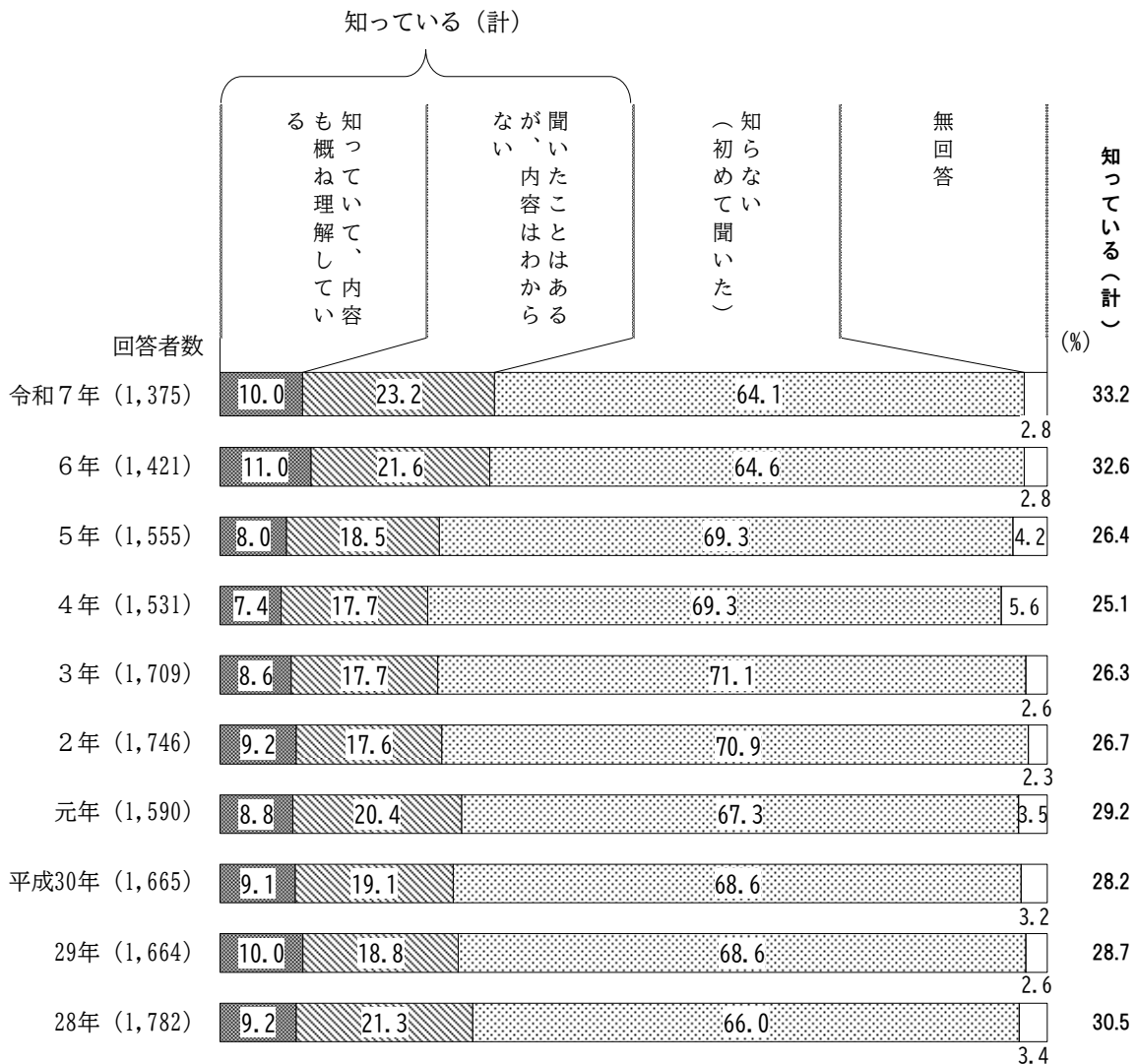
※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

■【知っている】は3割台半ばで、「知らない（初めて聞いた）」が6割台半ば

ア 単純集計・経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

- （ア）「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、「知っていて、内容も概ね理解している」が10.0%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の23.2%を合わせた【知っている】は33.2%となっている。
- （イ）「孤立ゼロプロジェクト」を「知らない（初めて聞いた）」は64.1%を占めている。
- （ウ）前回調査との比較では、【知っている】は大きな違いは見られない。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

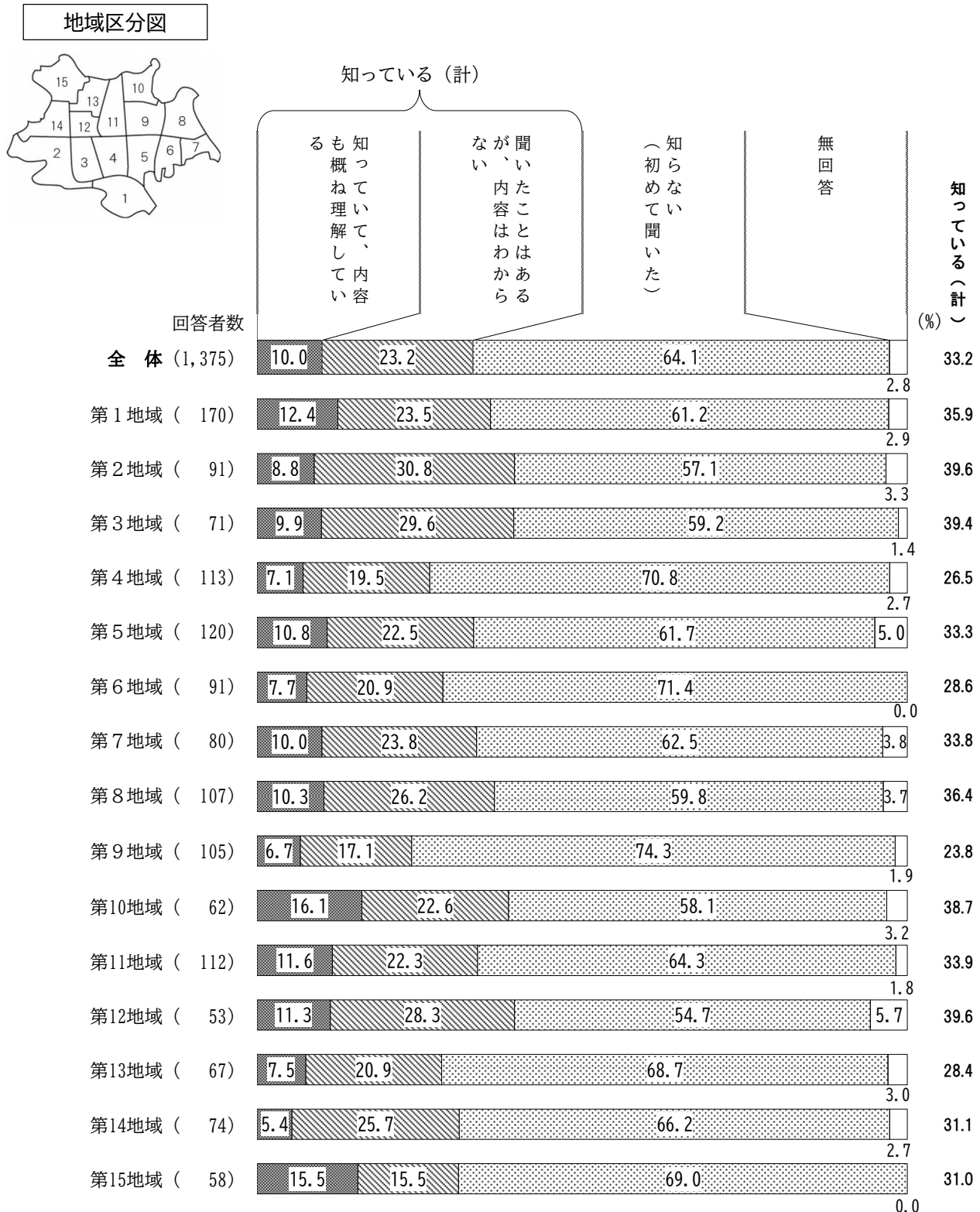


第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

イ クロス集計・地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

地域別でみると、【知っている】は第2地域と第12地域が39.6%で最も高く、次いで第3地域（39.4%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第9地域が74.3%で最も高く、次いで第6地域（71.4%）、第4地域（70.8%）が7割台となっている。

図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

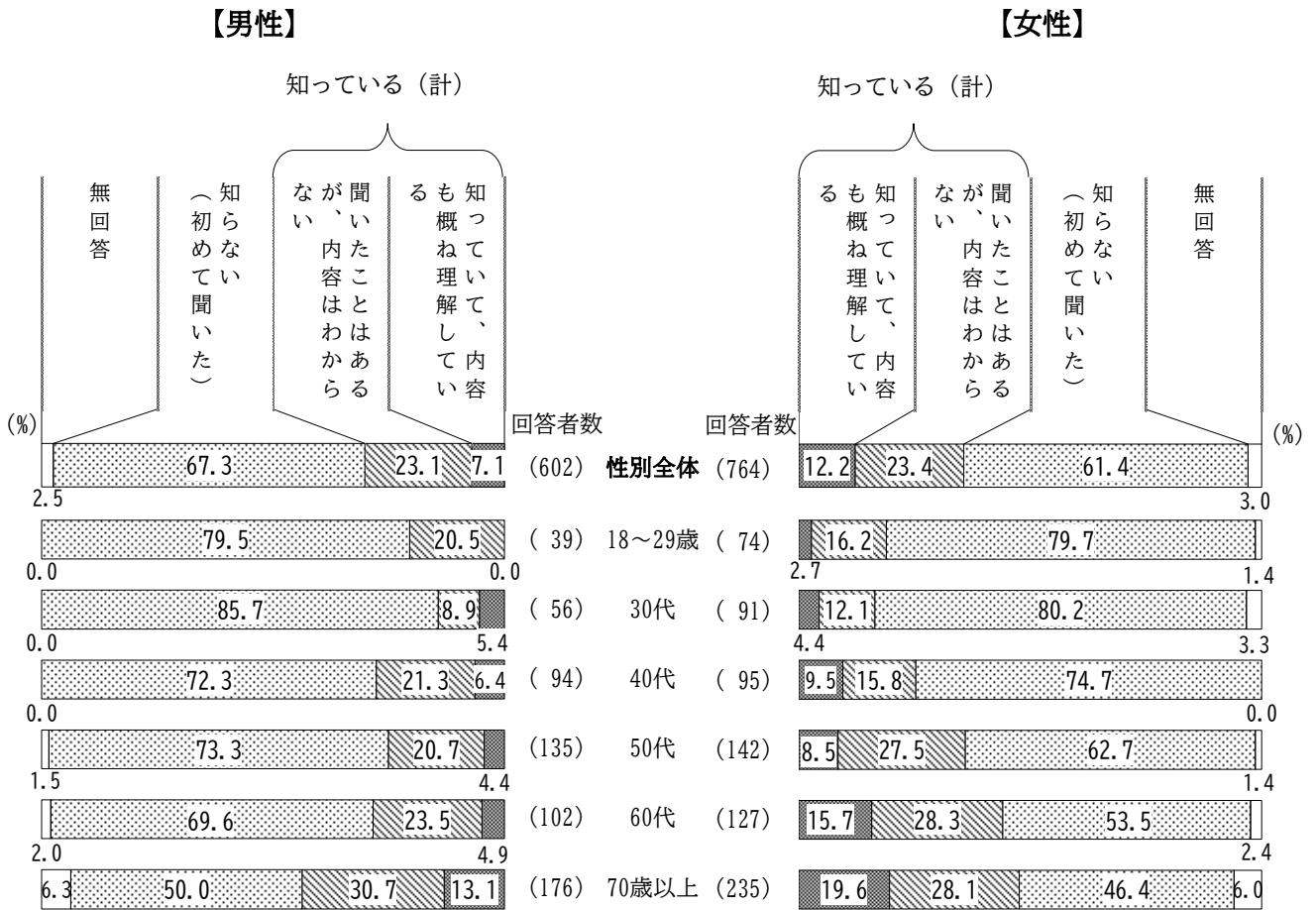


ウ クロス集計・性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

(ア) 性別でみると、【知っている】は女性（35.6%）の方が男性（30.2%）より5.4ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別でみると、【知っている】は女性の70歳以上が47.7%と最も高く、女性の60代（44.1%）、男性の70歳以上（43.8%）が4割台で続いている。一方、「知らない」は男性の30代（85.7%）と女性の30代（80.2%）で8割台と高くなっている。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



(2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知

問34 現在、区内には、高齢者の介護や生活上の相談等を受ける地域包括支援センターがあります。あなたは、地域包括支援センター（ホウカツ）の業務内容を知っていますか
（○はあてはまるものすべて）。

- 【業務内容を知っている】が5割を超え、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」が2割台半ば超
- 知っている業務内容は、「高齢者の健康や介護の相談」、「介護保険サービスの相談」、「高齢者宅への訪問調査」の順

ア 単純集計／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 地域包括支援センターの認知については、【業務内容を知っている】が51.3%で、「地域包括支援センターは知っているが、業務内容は知らない」が17.3%、「地域包括支援センターを知らない」が27.6%となっている。

(イ) 知っている業務内容の上位は以下のとおりとなっている。

- ① 「高齢者の健康や介護の相談」(46.5%)
- ② 「介護保険サービスの相談」(33.1%)
- ③ 「高齢者宅への訪問調査」(27.1%)

(ウ) 前回調査と比較してみると、「地域包括支援センターを知らない」が2.9ポイント減少し、減少傾向となっている。

図9-2-1-① 経年比較／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

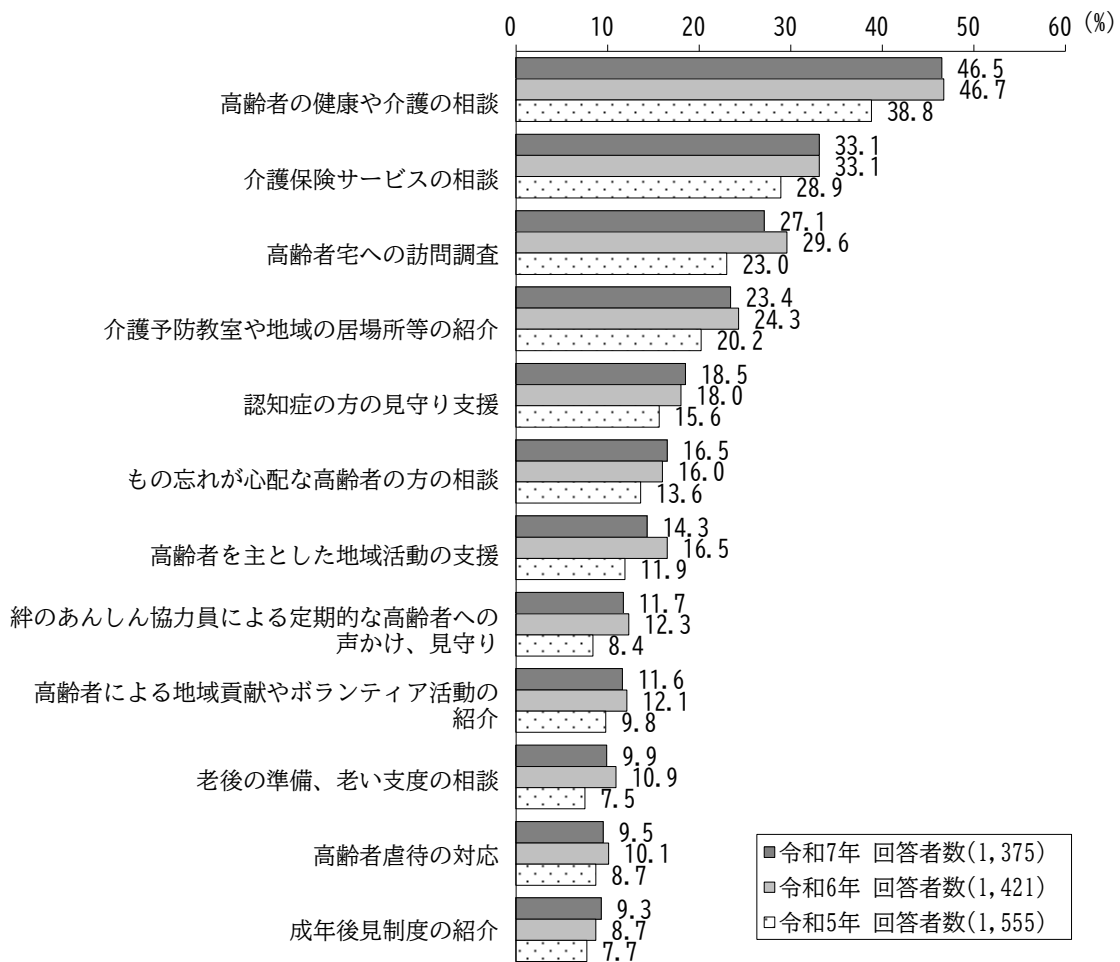
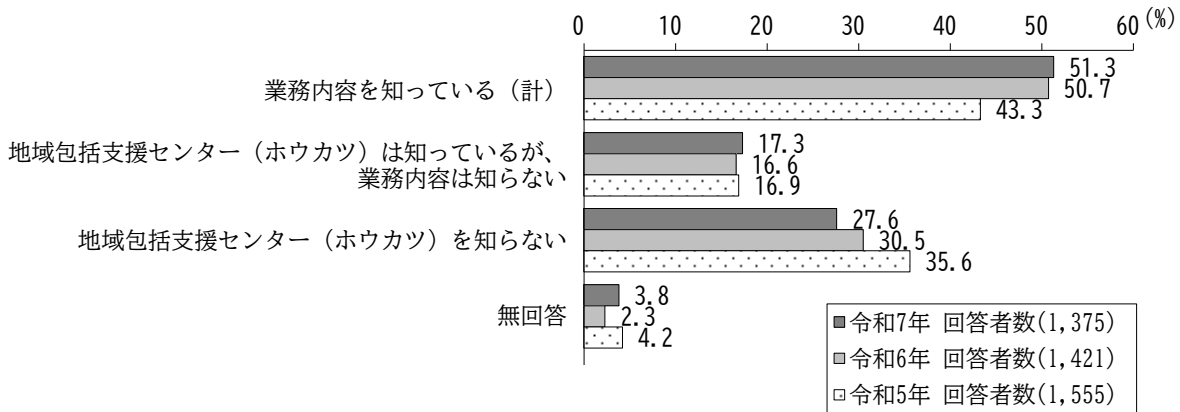


図9-2-1-② 経年比較／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

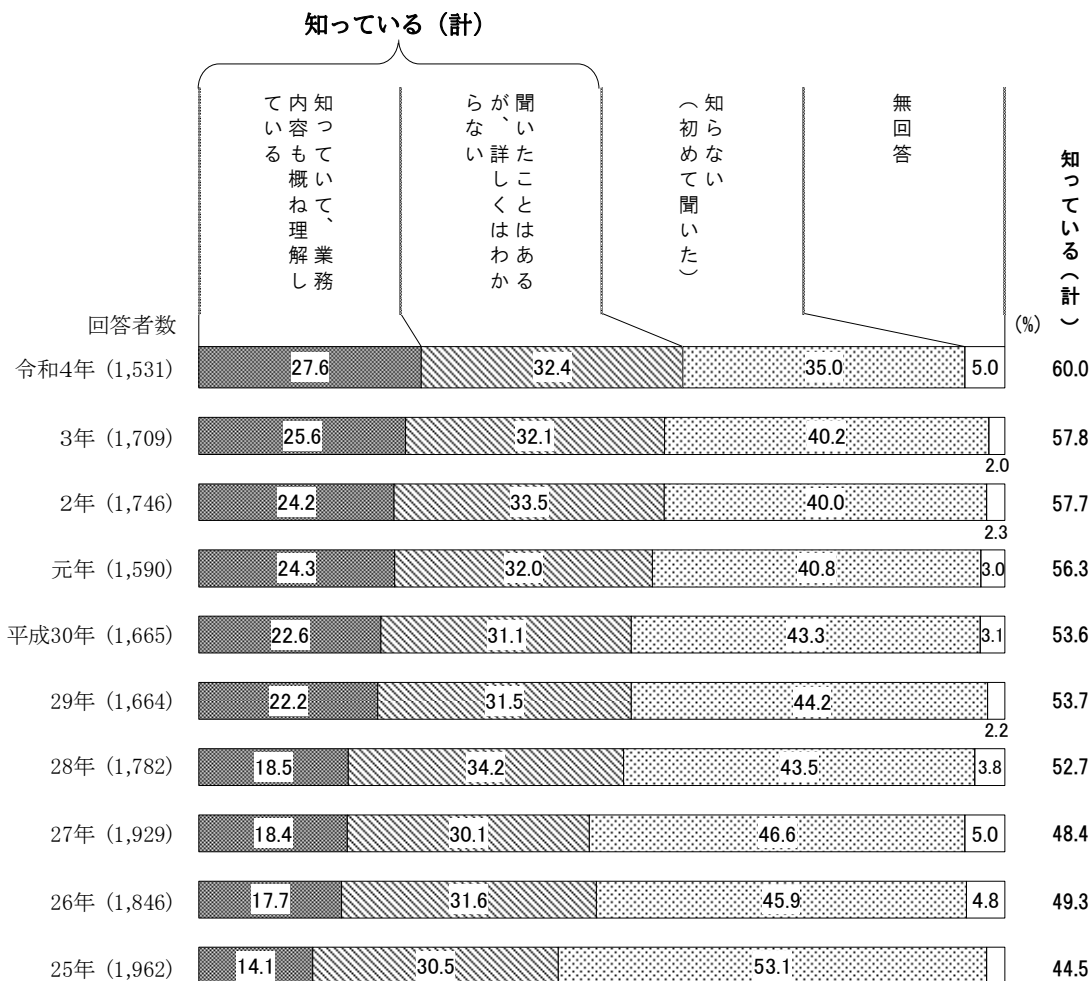


※《業務内容を知っている (計)》=100%－「地域包括支援センター (ホウカツ) は知っているが、業務内容は知らない」－「地域包括支援センター (ホウカツ) を知らない」－「無回答」

参考／地域包括支援センターの認知

問 あなたは、「地域包括支援センター (※)」を知っていますか (○は1つだけ)。

※「地域包括支援センター」は、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の健康や介護に関する様々なご相談に応じています。



※ 令和4年度までは「地域包括支援センター」の認知のみを聴いていたが、令和5年度からは認知に併せて、業務内容を選択肢で提示して聴いたことから、認知状況に影響を与えたと考えられるため、単純に比較できない。

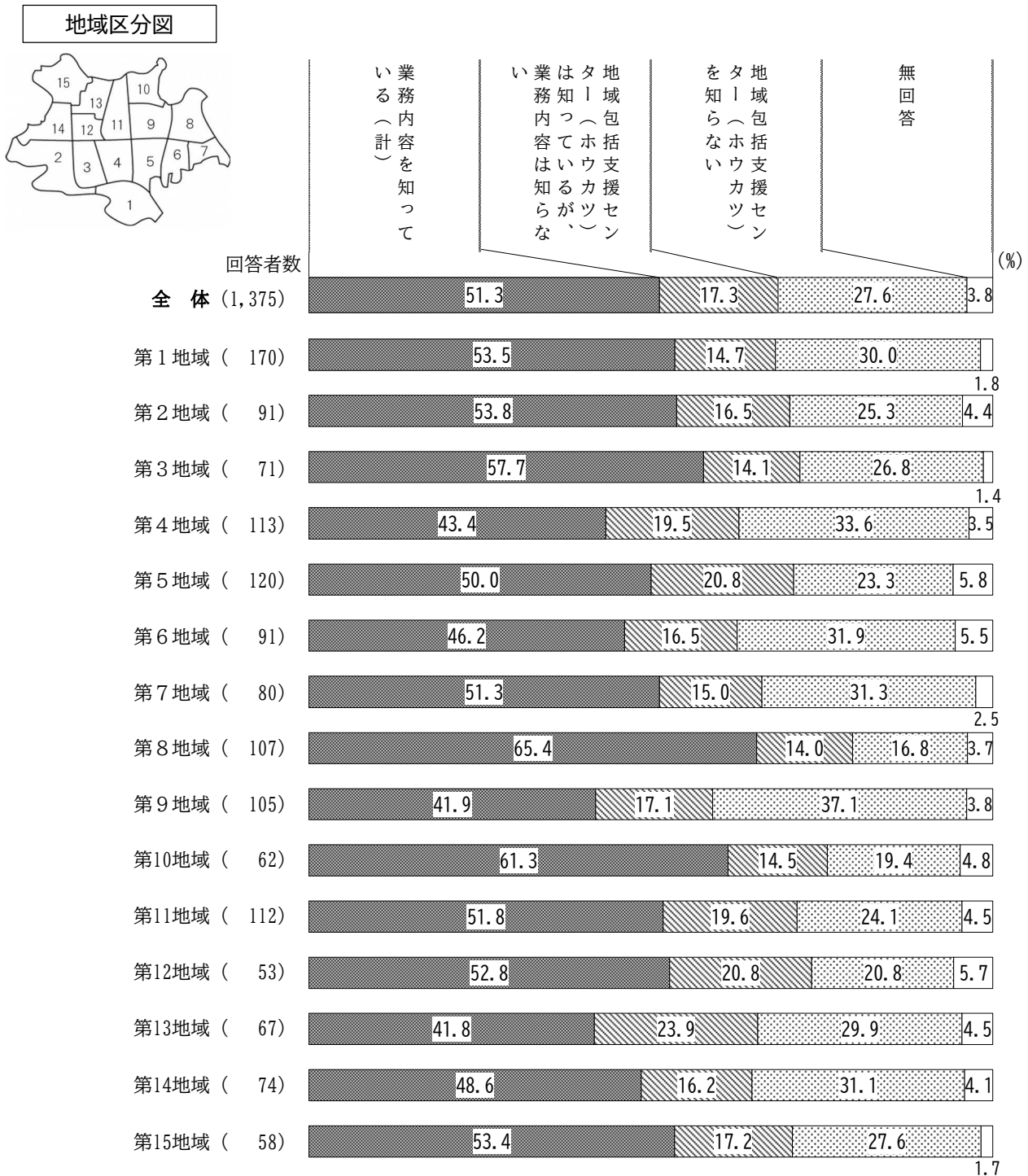
第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

イ クロス集計・地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

（ア）地域別に認知状況をみると、《業務内容を知っている》は第8地域が65.4%で最も高く、次いで、第10地域（61.3%）が6割台で続いている。

（イ）「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は第9地域が37.1%で最も高く、次いで、第4地域が33.6%となっている。

図9-2-2 地域別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

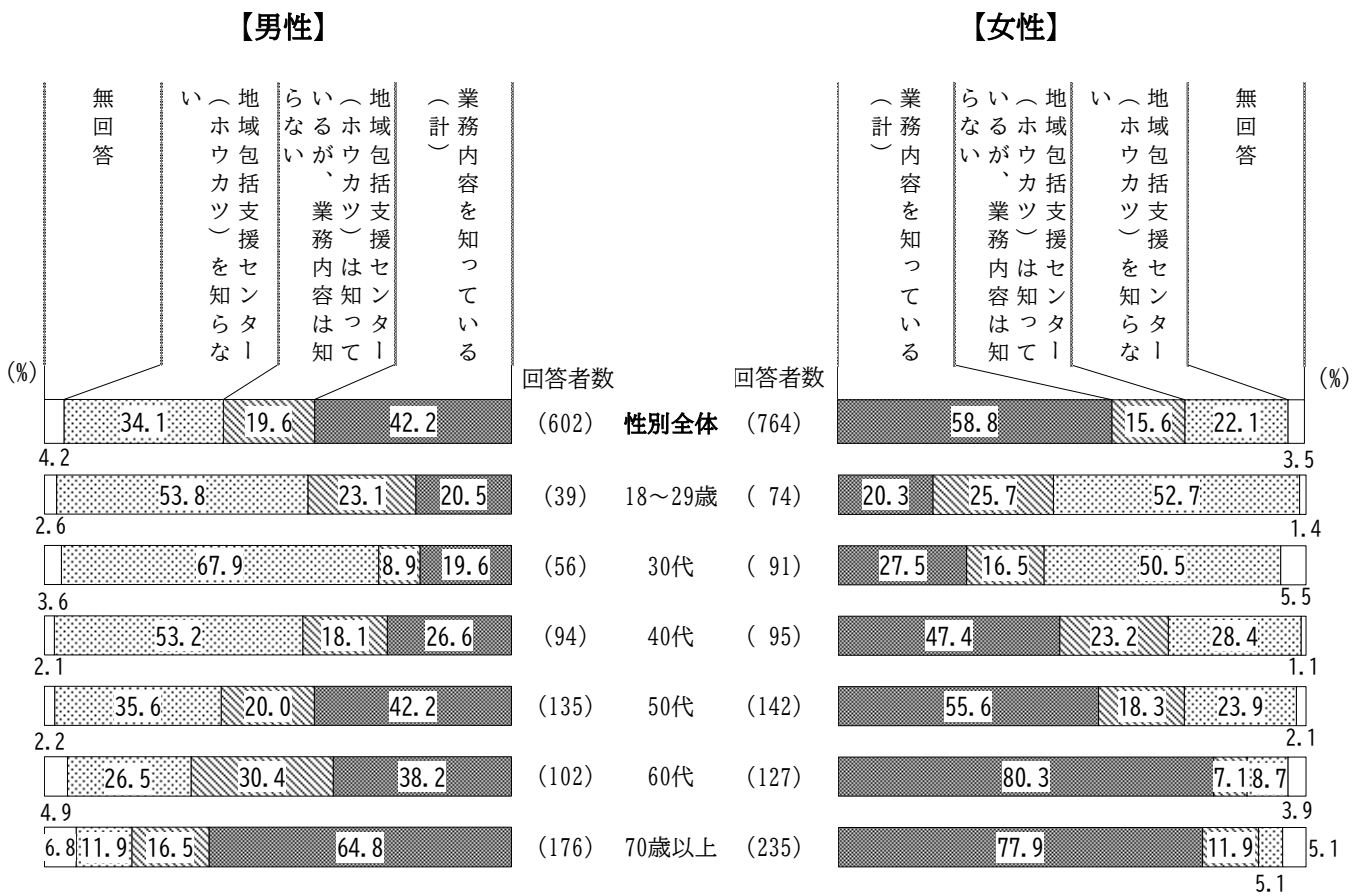


ウ クロス集計・性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知

(ア) 性別にみると、《業務内容を知っている》は、女性（58.8%）の方が男性（42.2%）より16.6ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別にみると、《業務内容を知っている》は、女性の60代で80.3%と最も高く、次いで、女性の70歳以上（77.9%）、男性の70歳以上（64.8%）などとなっている。一方、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は男性の30代で67.9%と最も高く、男性の18～29歳と40代、女性の18～29歳、30代で5割台となっている。

図9-2-3 性別、性・年代別／地域包括支援センター、及び業務内容の認知



（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

問35 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

■【協力したい】は2割台半ば、【協力できない】は4割

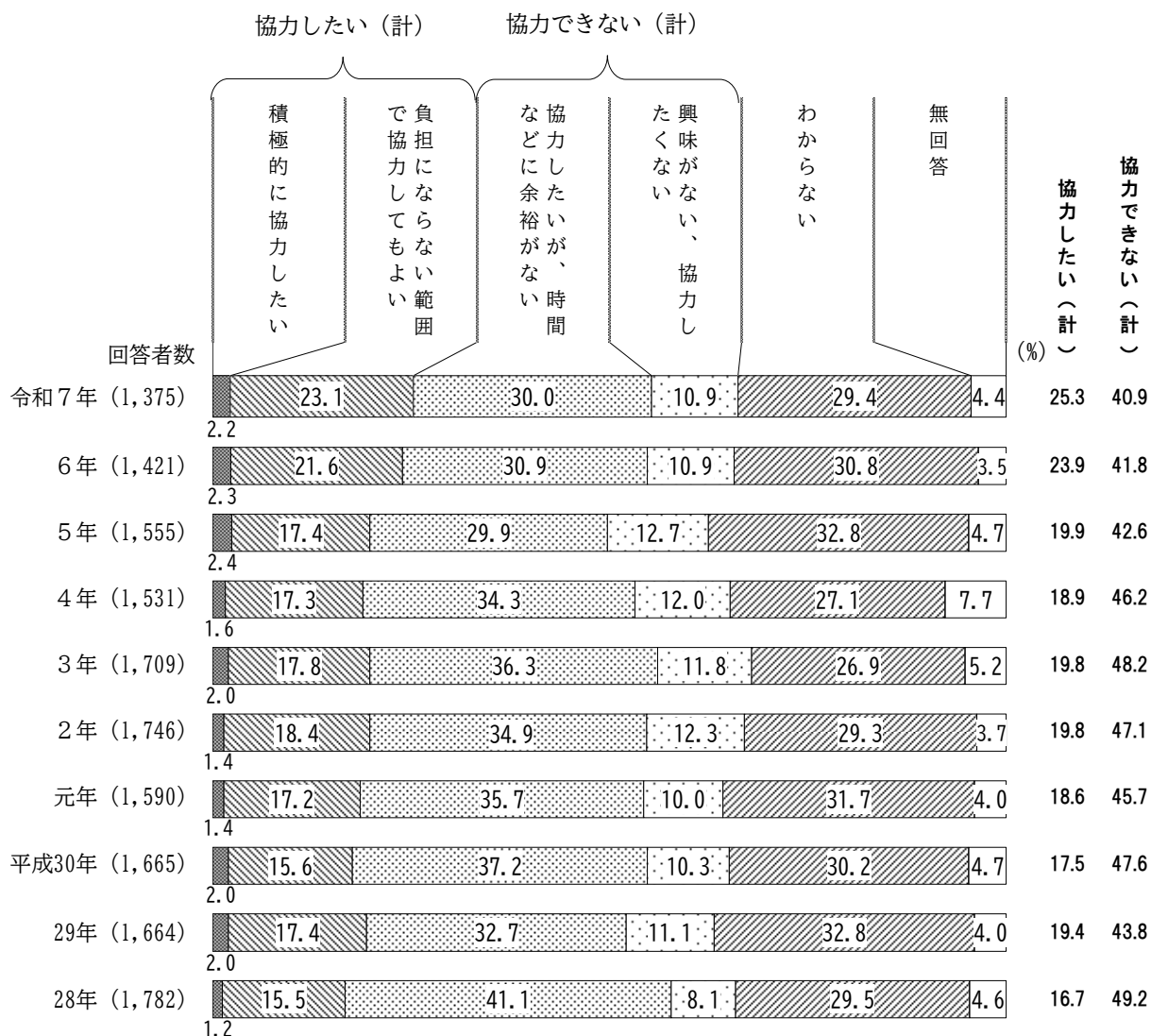
ア 単純集計・経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は2.2%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」(23.1%)を合わせた【協力したい】は25.3%となっている。

（イ）活動に「協力したいが、時間などに余裕がない」は30.0%で最も高く、これに「興味がない、協力したくない」(10.9%)を合わせた【協力できない】は40.9%となっている。

（ウ）前回調査との比較では、特に大きな違いは見られない。

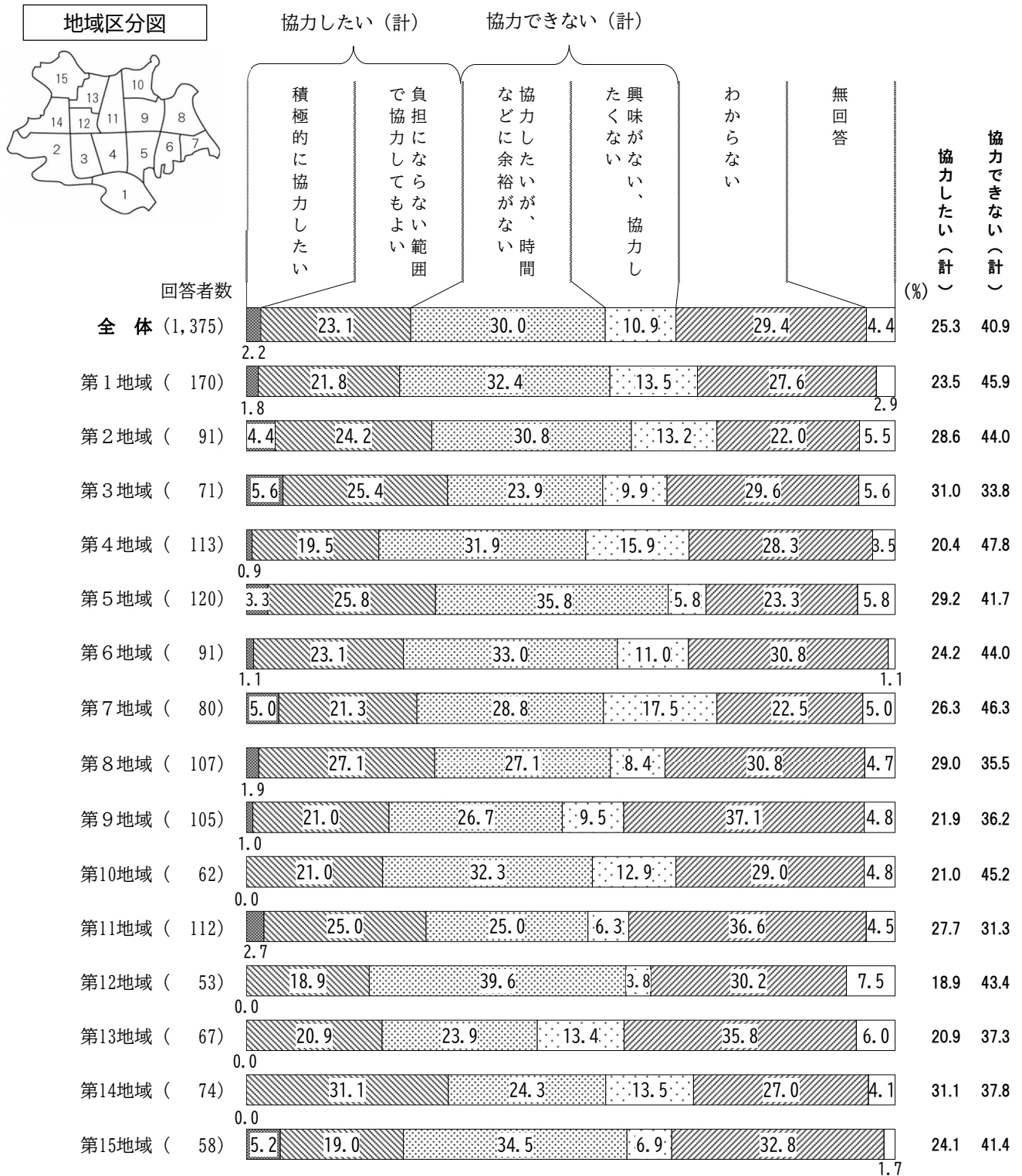
図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



イ クロス集計・地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

地域別でみると、【協力したい】は第14地域が31.1%で最も高く、僅差で第3地域（31.0%）となっている。一方、【協力できない】は第4地域が47.8%と最も高く、次いで、第7地域（46.3%）となっている。

図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



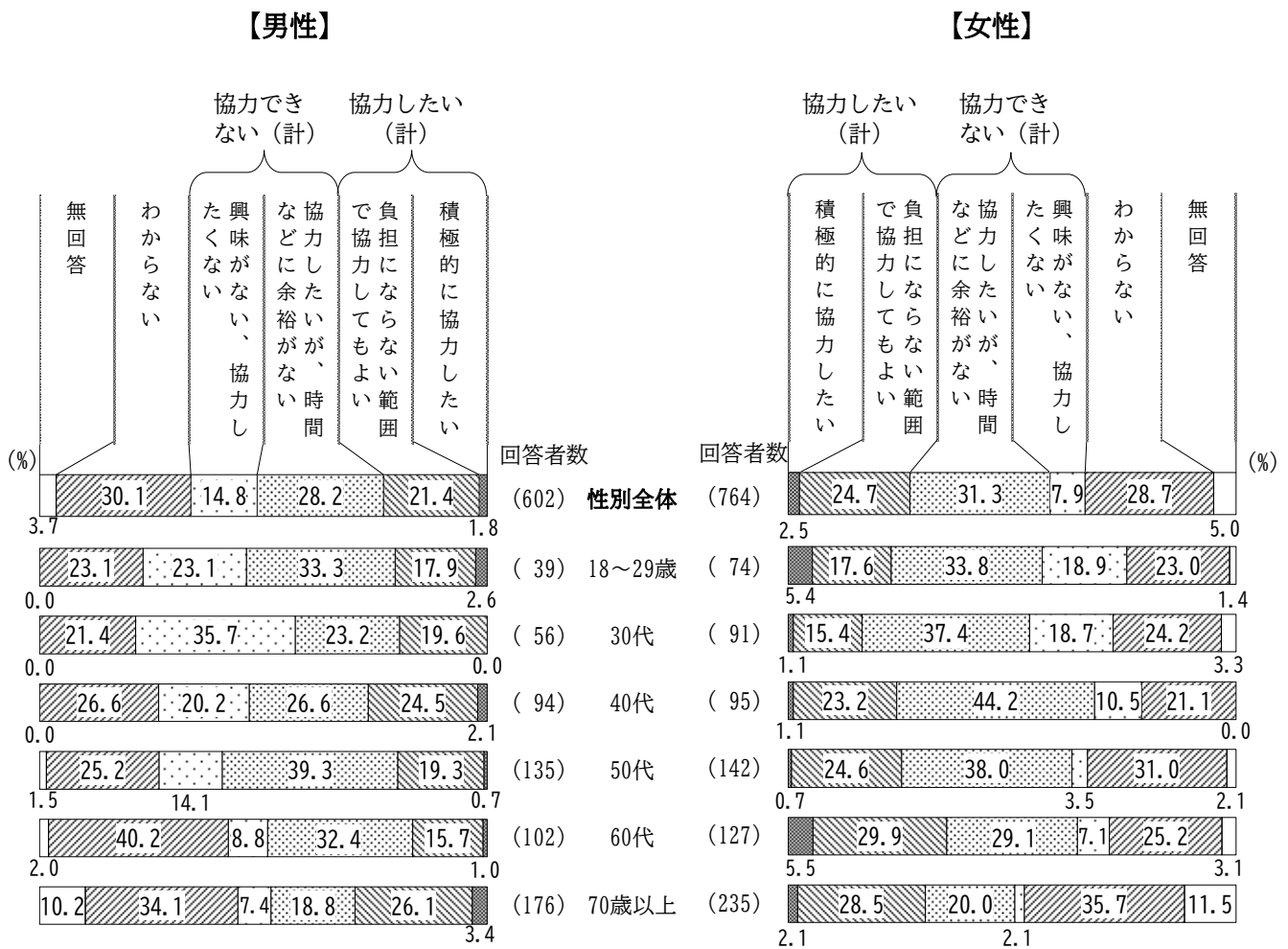
第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

ウ クロス集計・性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

（ア）性別で見ると、【協力したい】は女性（27.2%）の方が男性（23.3%）より3.9ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別で見ると、【協力したい】は女性の60代（35.4%）が3割台半ばと高く、次いで、女性の70歳以上（30.6%）となっている。一方、【協力できない】は、男性の18～29歳と30代、50代、女性の40代以下の年齢層で5割台と高くなっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



(4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

問36 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状態「フレイル」にならないためには、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

■【知っている】は5割台半ば超、「知らない（初めて聞いた）」は約4割

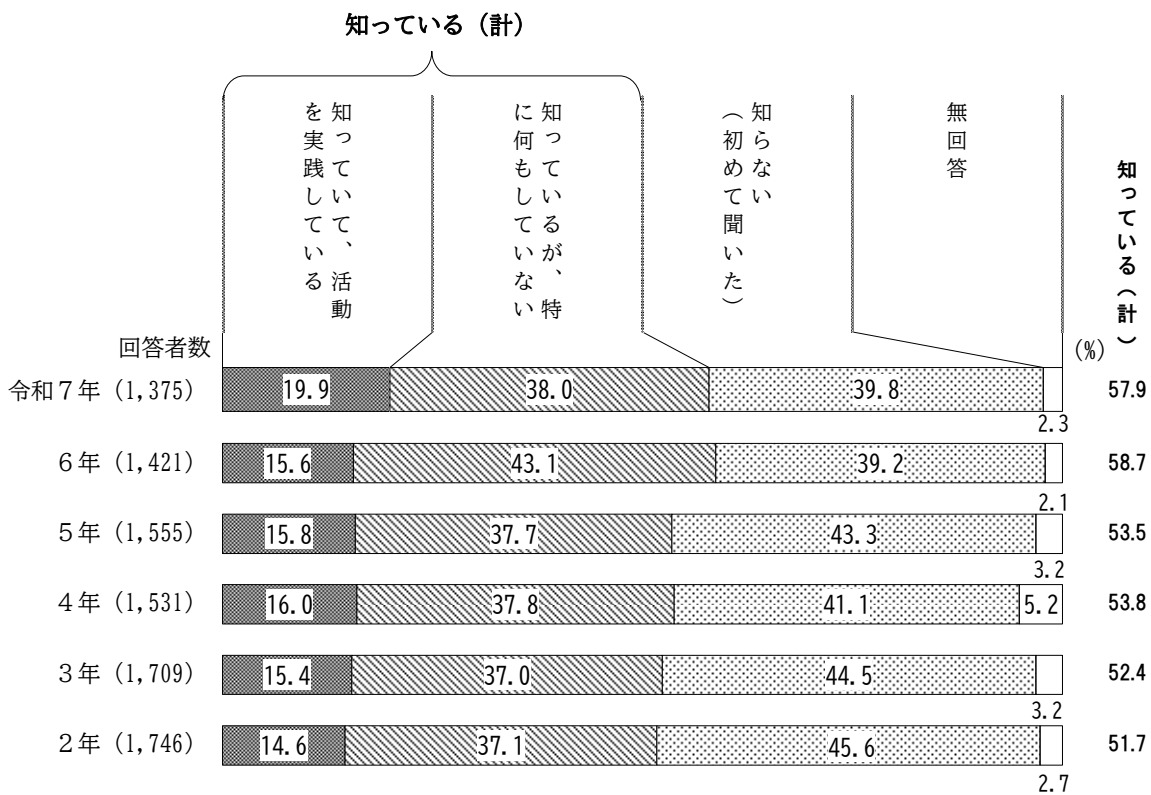
ア 単純集計・経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

(ア) 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」が大切なことの認知とその実践状況は、「知っていて、活動を実践している」は19.9%となっており、これに「知っているが、特に何もしていない」（38.0%）を合わせた【知っている】は57.9%となっている。

(イ) 「フレイル」にならないための活動について「知らない（初めて聞いた）」は39.8%となっている。

(ウ) 前回調査との比較では、「知っていて、活動を実践している」が4.3ポイント増加している。

図9-4-1 経年比較／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

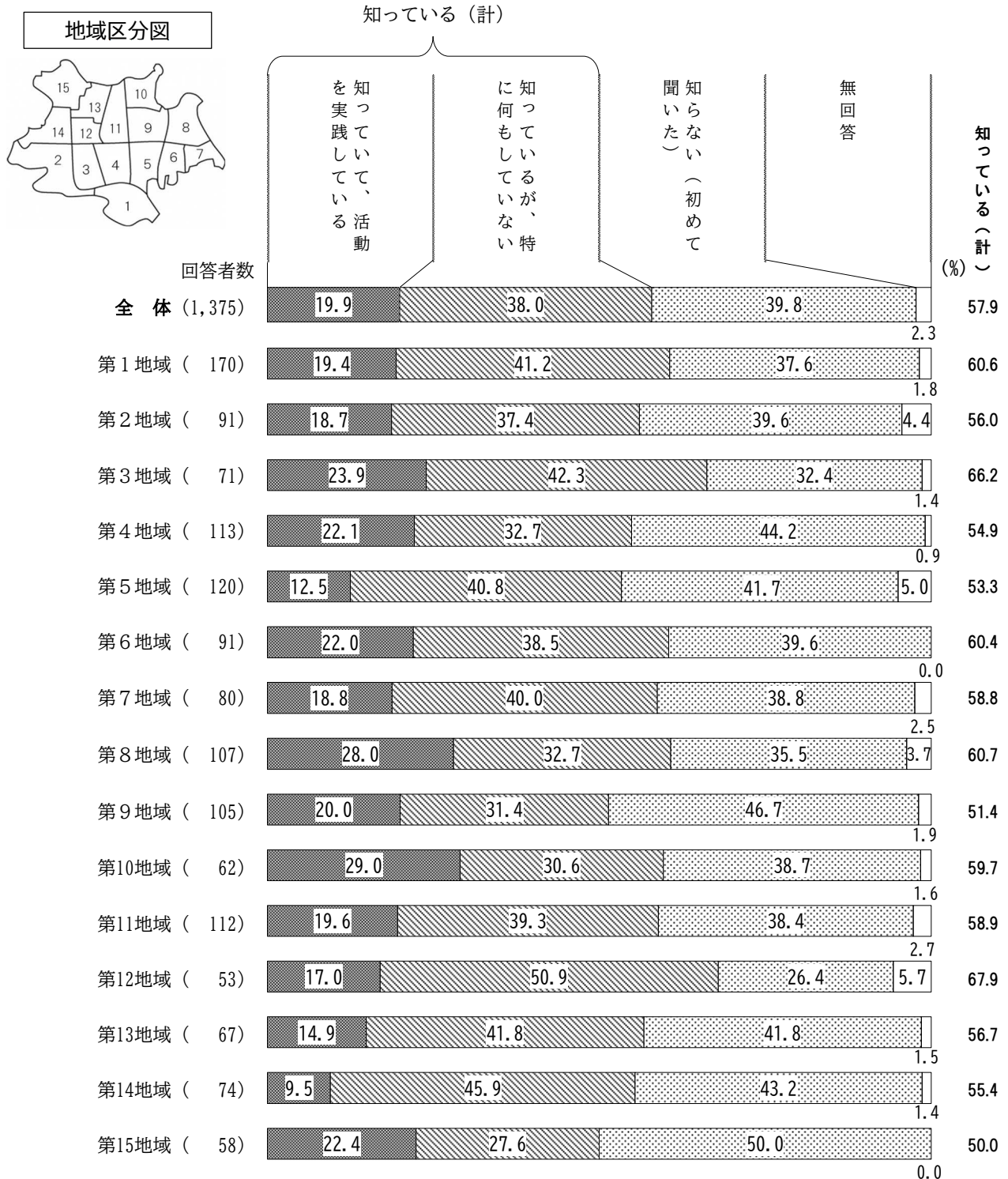


第3章 調査結果の分析〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

イ クロス集計・地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

地域別でみると、「知っている、活動を実践している」は第10地域が29.0%で最も高く、次いで第8地域（28.0%）となっている。【知っている】でみると、第12地域が67.9%で最も高く、次いで第3地域（66.2%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は第15地域が50.0%で最も高く、次いで第9地域（46.7%）となっている。

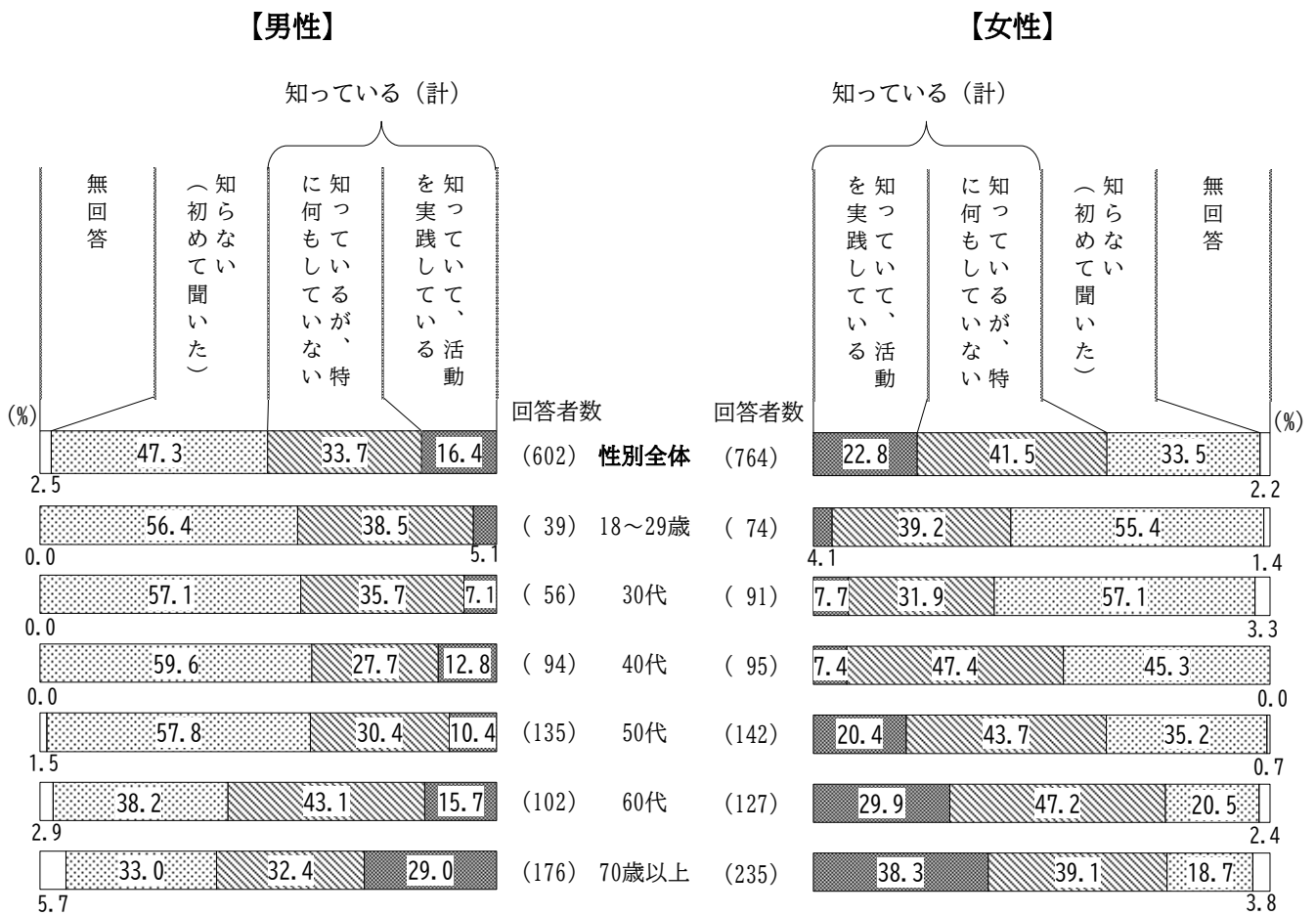
図9-4-2 地域別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



ウ クロス集計・性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況

- (ア) 性別で見ると、【知っている】は女性（64.3%）の方が男性（50.2%）より14.1ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は、女性の60代、70歳以上で7割台半ば超と高く、女性の50代と男性の70歳以上が6割台となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の50代以下と女性の30代以下で5割台後半と高くなっている。

図9-4-3 性別、性・年代別／「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況



(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

問37 あなたは、たんぱく質を多く含む食品（肉・魚・卵・大豆製品の1種類以上）をどれくらいの頻度で食べていますか（○は1つだけ）。

※「フレイル」になる要因の一つとして、たんぱく質の不足があげられます。

■ 「毎食（1日3回）食べている」が2割強、「1日2回位食べている」が3割台半ば近く

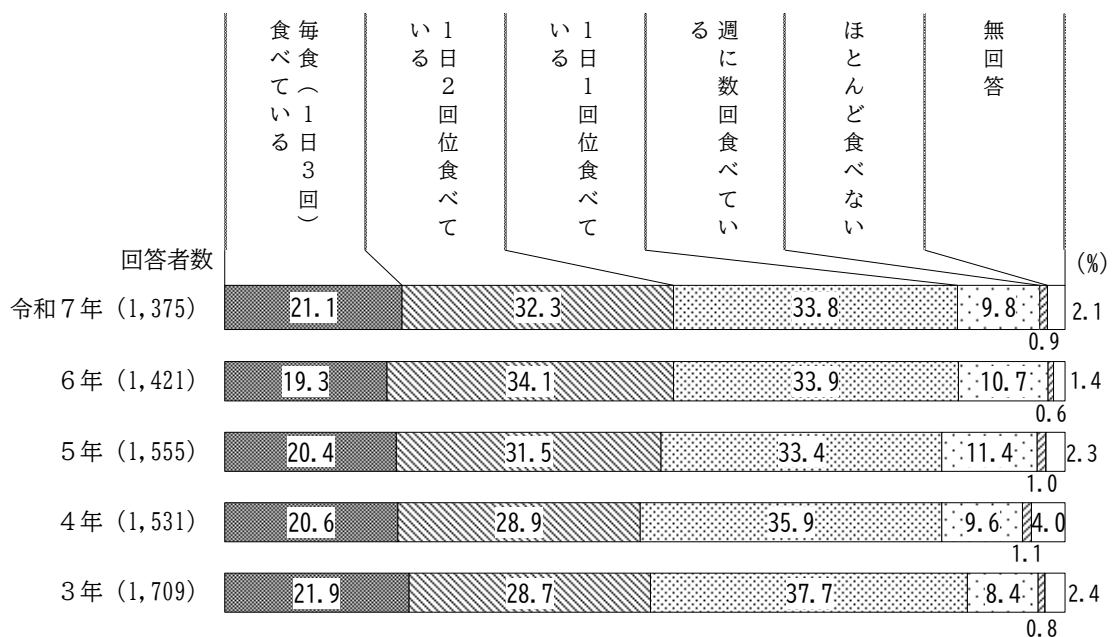
ア 単純集計・経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

(ア) 「たんぱく質を多く含む食品」の摂取頻度は、高い順にみると以下のとおりとなっている。

- ① 「1日1回位食べている」(33.8%)
- ② 「1日2回位食べている」(32.3%)
- ③ 「毎食（1日3回）食べている」(21.1%)
- ④ 「週に数回食べている」(9.8%)
- ⑤ 「ほとんど食べない」(0.9%)

(イ) 前回調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

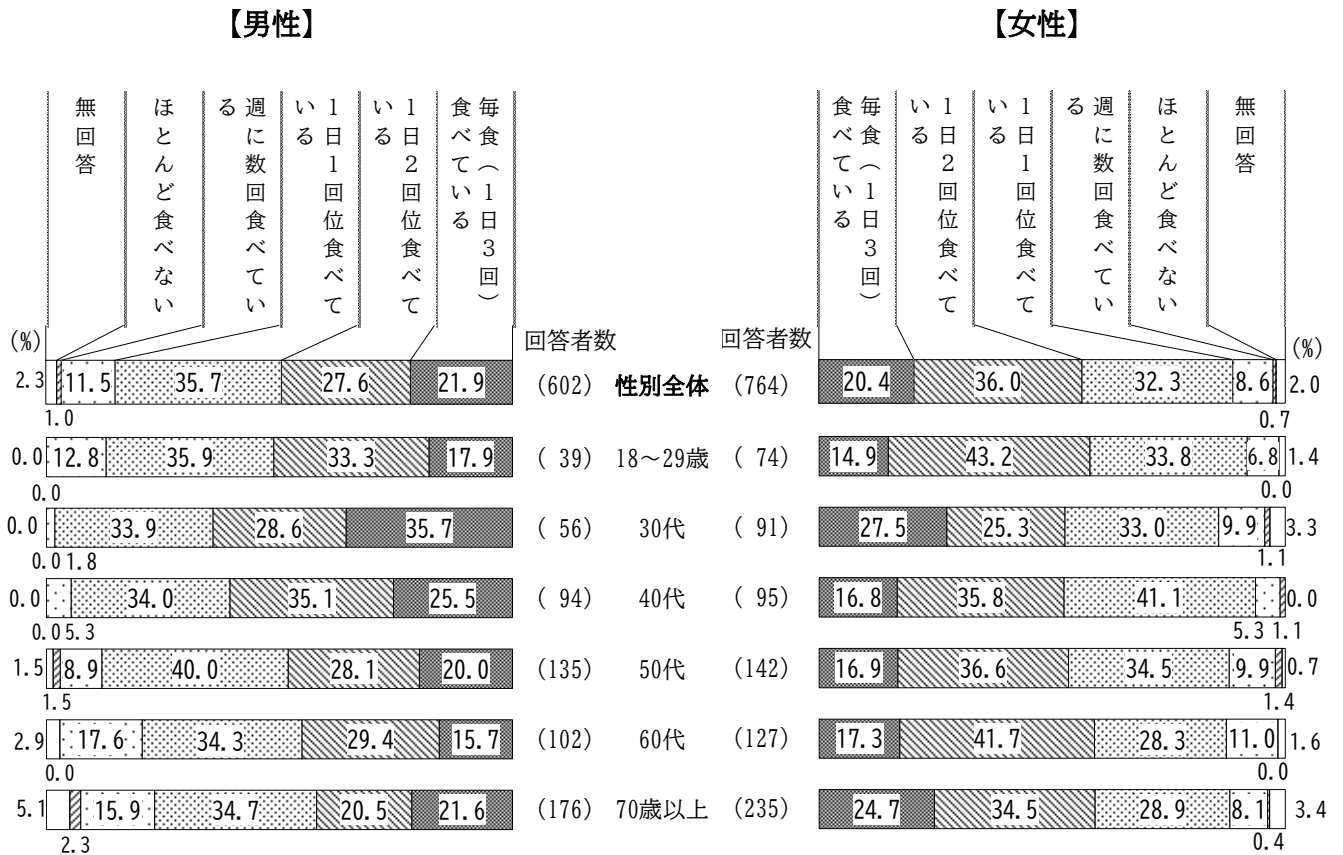
図9-5-1 経年比較／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



イ クロス集計・性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況

- (ア) 性別で見ると、「1日2回位食べている」は女性（36.0%）の方が男性（27.6%）より8.4ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「毎食（1日3回）食べている」は男性の30代（35.7%）が他の性・年代層に比べて特に高く、次いで女性の30代（27.5%）となっている。逆に女性の18～29歳が14.9%で最も低く、次いで男性の60代（15.7%）となっている。

図9-5-2 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の摂取状況



（6）仕事と仕事以外の生活の調和

問38 あなたは、仕事と仕事以外の生活の調和が取れていると思いますか（○は1つだけ）。

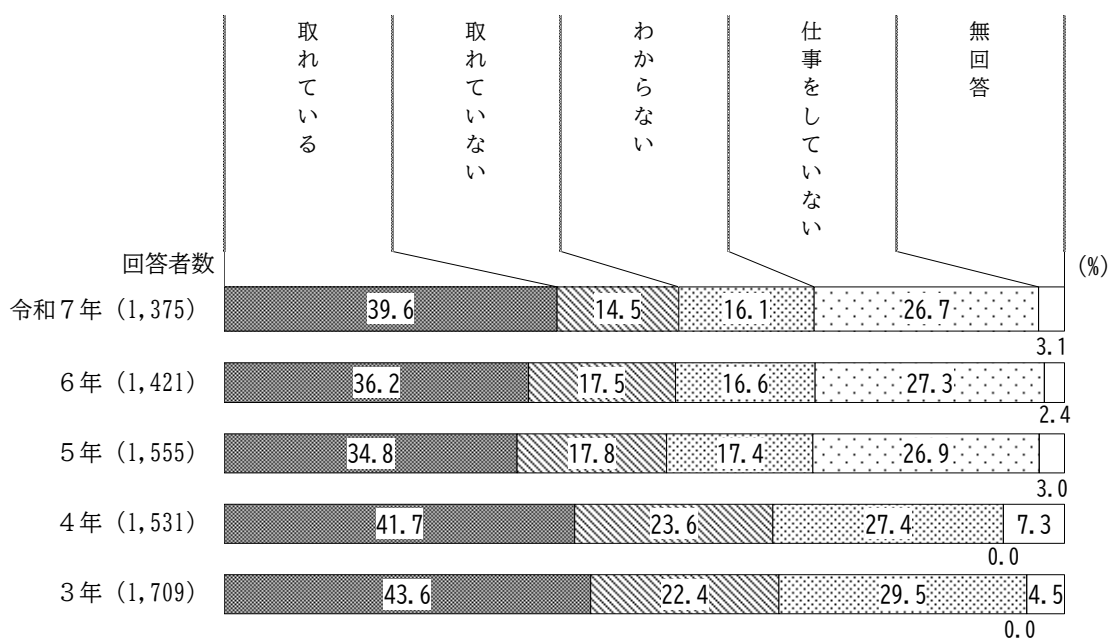
■「取れている」が約4割、「取れていない」と「わからない」が1割台半ば

ア 単純集計・経年比較／仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」が39.6%で、「取れていない」（14.5%）と「わからない」（16.1%）が1割台半ばとなっている。

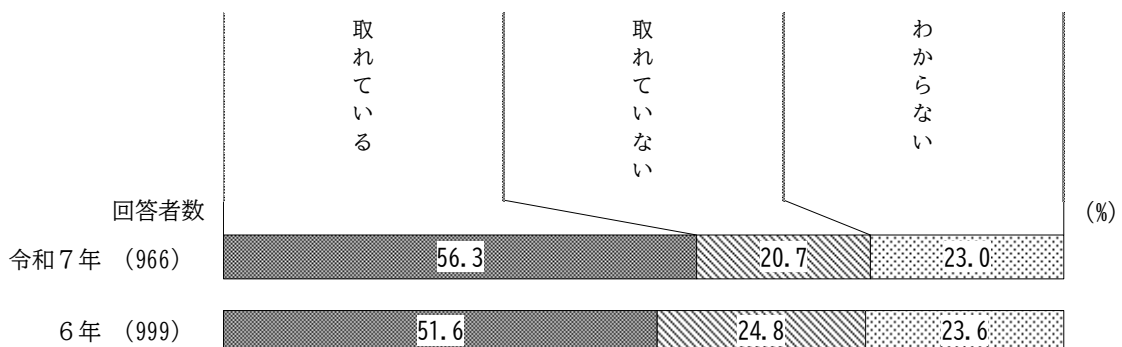
（イ）前回調査との比較では、「取れている」が3.4ポイント増加し、漸増傾向となっている。

図9-6-1 経年比較／仕事と仕事以外の生活の調和



※「仕事をしていない」は、令和5年度からの新設項目。

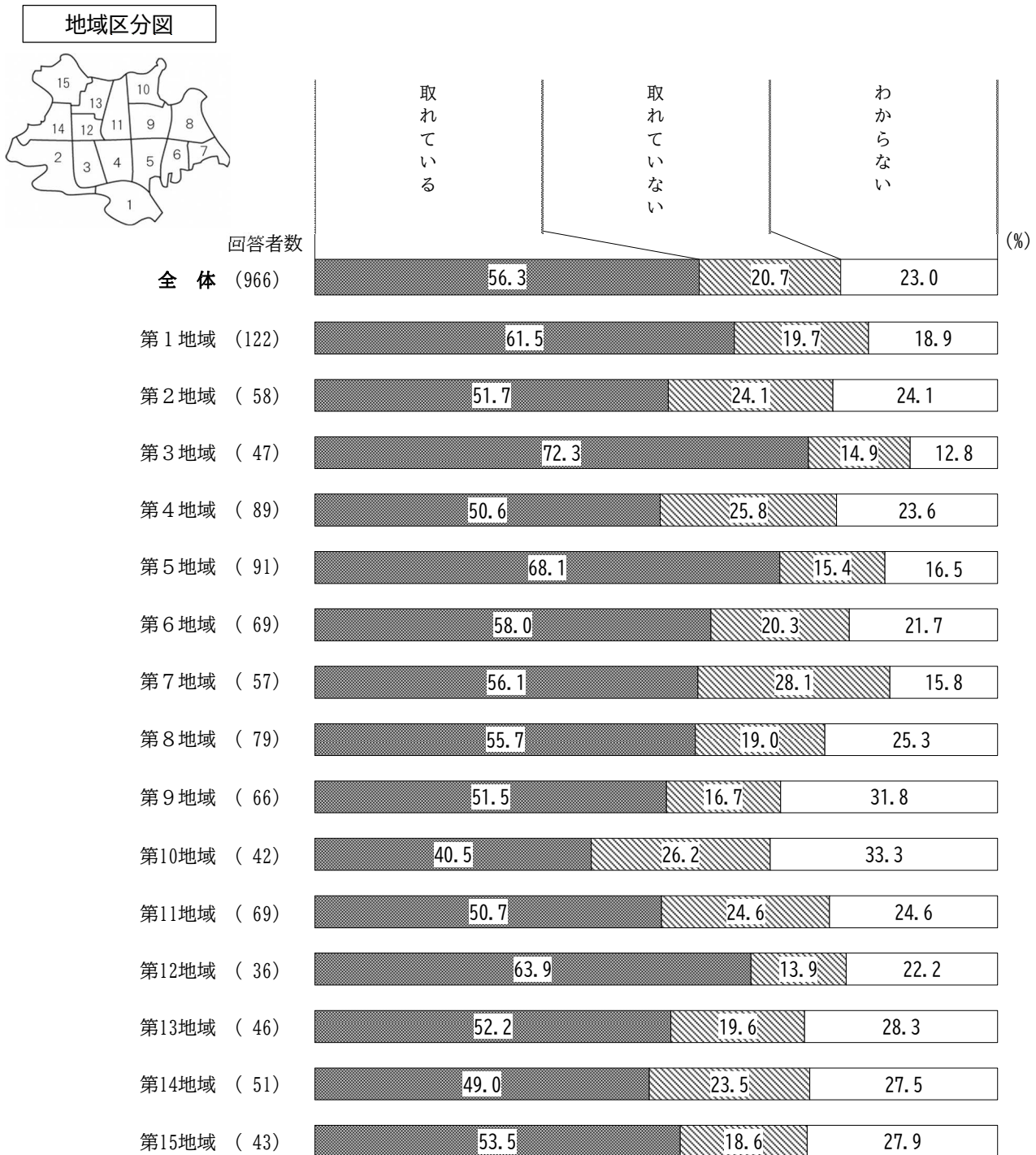
図9-6-2 前回調査比較／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
（本図においては、就業者を母数として再計算している）



イ クロス集計・地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

就業者における仕事と仕事以外の生活の調和の状況を地域別でみると、「取れている」は第3地域が72.3%で最も高く、次いで第5地域（68.1%）となっている。一方、「取れていない」は第7地域が28.1%で最も高く、次いで第10地域（26.2%）となっている。

図9-6-3 地域別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
（本図においては、就業者を母数として再計算している）



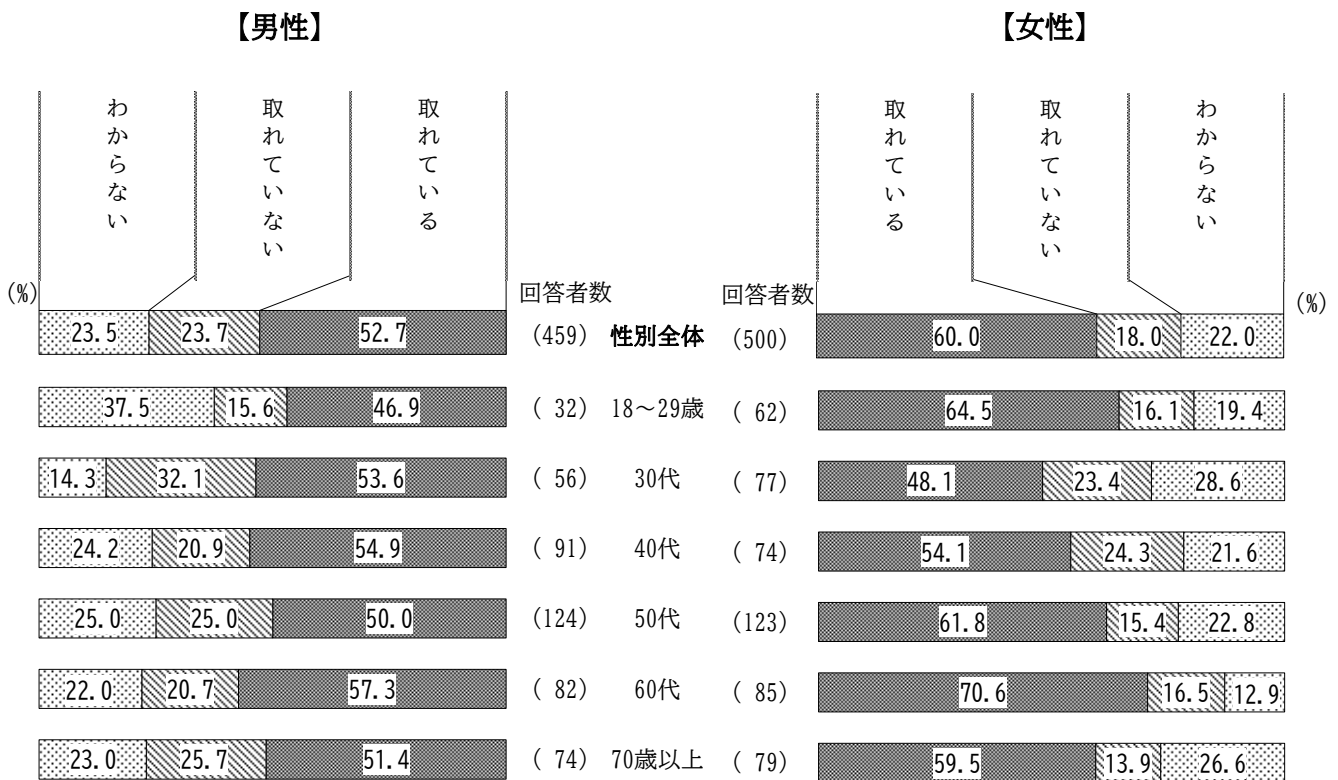
第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

ウ クロス集計・性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和

（ア）性別で見ると、「取れている」は女性（60.0%）の方が男性（52.7%）より7.3ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別で見ると、「取れている」は女性の60代（70.6%）が最も高く、次いで女性の18～29歳（64.5%）と50代（61.8%）が6割台で続いている。一方、「取れていない」は男性の30代が32.1%で最も高くなっている。

図9-6-4 性別、性・年代別／就業者における仕事と仕事以外の生活の調和
（本図においては、就業者を母数として再計算している）



(7) 「福祉まるごと相談課」の認知

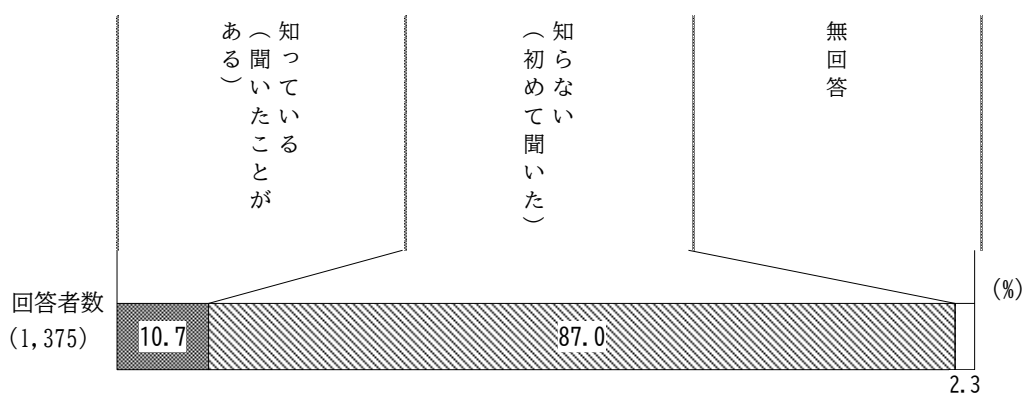
問39 あなたは、「福祉まるごと相談課」という区の相談窓口を知っていますか（○は1つだけ）。

■ 「知らない（初めて聞いた）」が8割台半ば超で、「知っている（聞いたことがある）」は1割

ア 単純集計／「福祉まるごと相談課」の認知

「福祉まるごと相談課」の認知について、「知らない（初めて聞いた）」が87.0%を占めており、「知っている（聞いたことがある）」は10.7%であった。

図9-7-1 単純集計／「福祉まるごと相談課」の認知

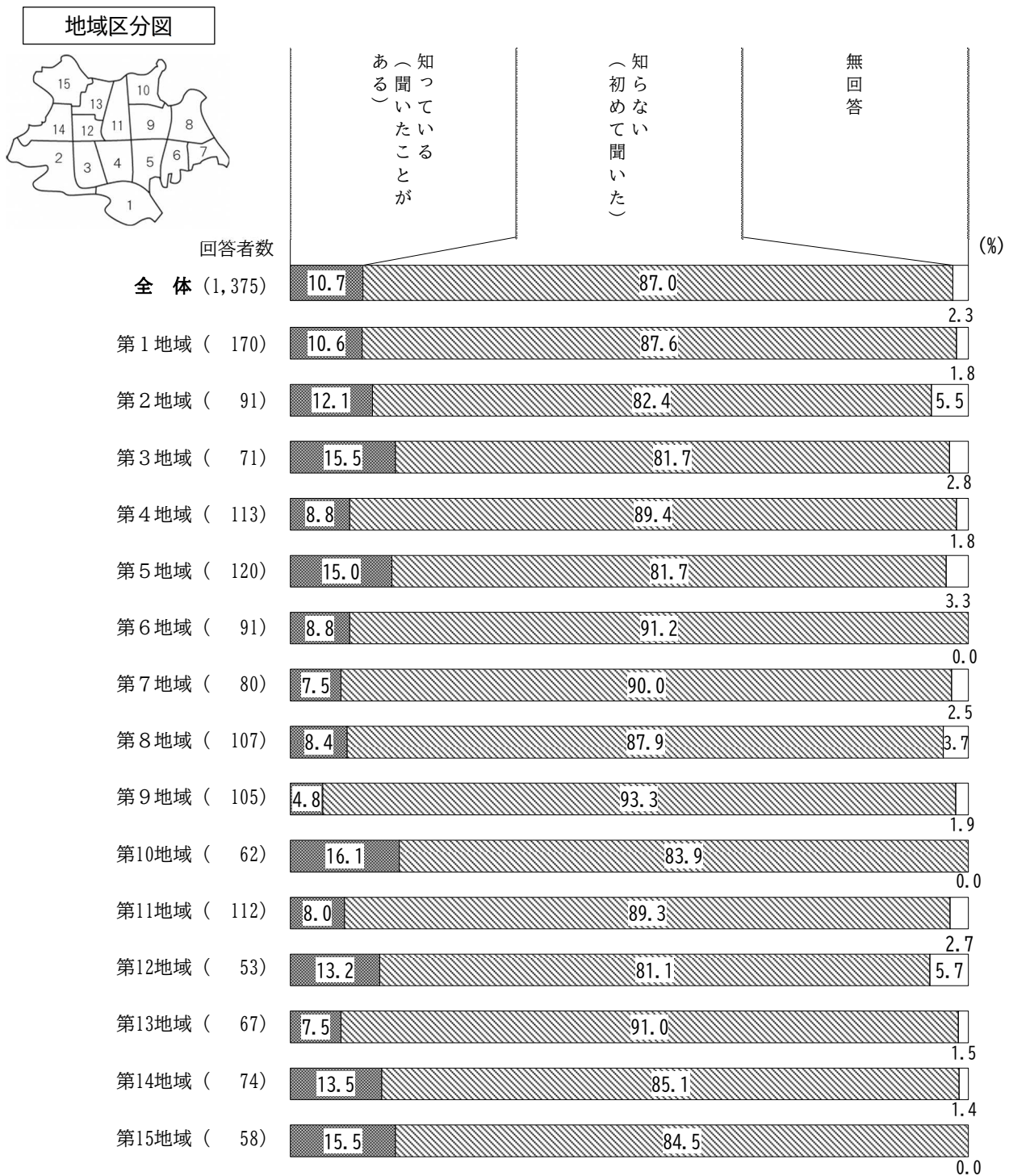


※「福祉まるごと相談課」は、高齢、介護、障がい、子ども・子育てなど既存の窓口に加えて、「だれでも・なんでも相談できる窓口」として、令和6年度に新たに創設した福祉窓口です。

イ クロス集計・地域別／「福祉まるごと相談課」の認知

「福祉まるごと相談課」の認知状況を地域別でみると、「知っている（聞いたことがある）」は、第10地域が16.1%で最も高く、次いで第3地域と第15地域がともに15.5%で続いている。逆に第9地域が4.8%で最も低く、次いで第7地域と第13地域がともに7.5%となっており、15地域中7地域で認知度が1桁となっている。

図9-7-2 地域別／「福祉まるごと相談課」の認知



(8) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

問40 あなたは、下記のア、イについて知っていますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

■【知っている】は〈身体的暴力以外のDV〉が8割台半ば、〈LGBT〉が7割台半ば

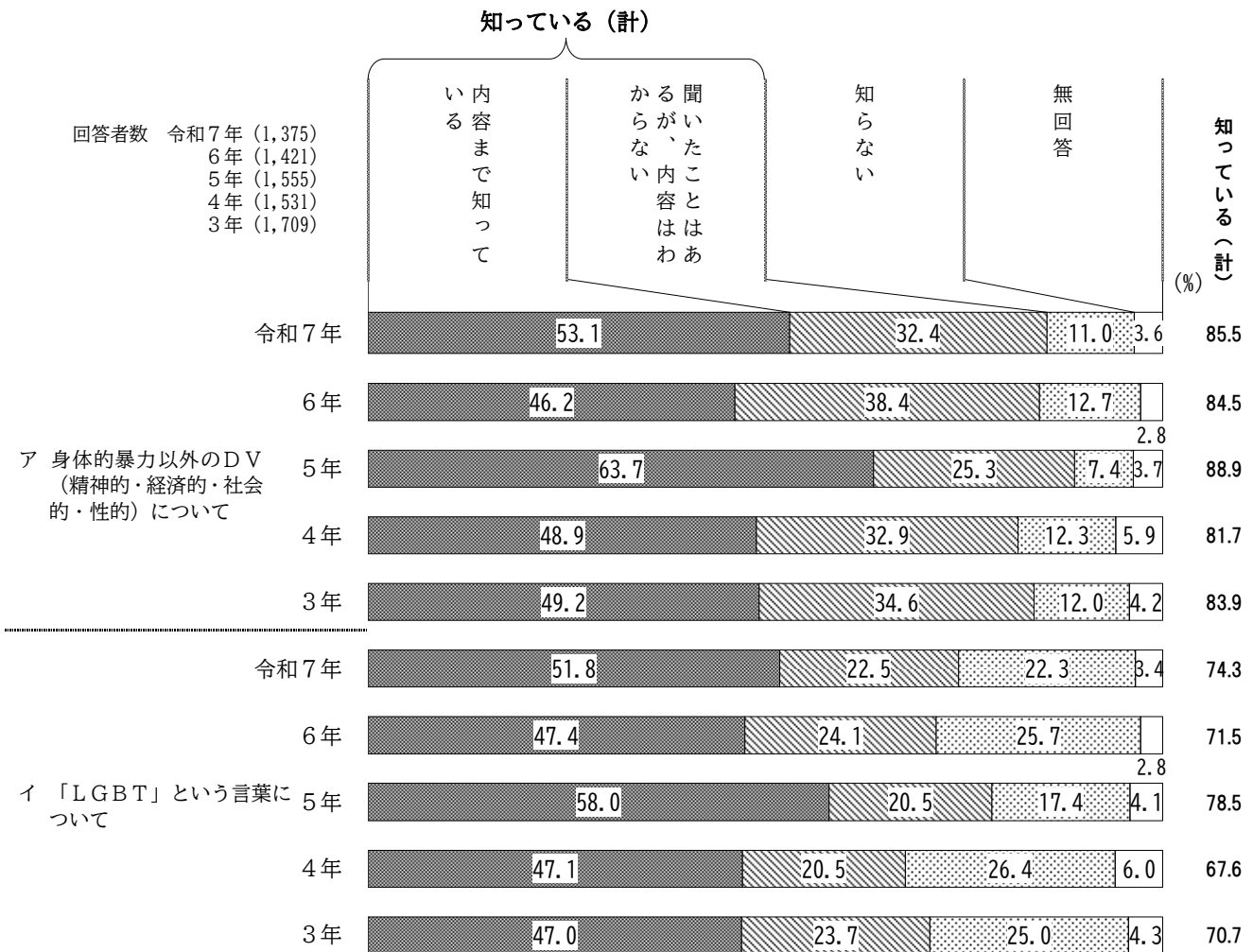
ア 単純集計・経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況

(ア) 〈身体的暴力以外のDV〉は、「内容まで知っている」が53.1%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(32.4%)を合わせた【知っている】は85.5%となっている。

(イ) 〈LGBT〉は、「内容まで知っている」が51.8%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」(22.5%)を合わせた【知っている】は74.3%となっている。

(ウ) 前回調査との比較では、「内容まで知っている」について、〈身体的暴力以外のDV〉では6.9ポイント、〈LGBT〉では4.4ポイントの増加となっている。

図9-8-1 経年比較／「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況



イ クロス集計・性別、性・年代別

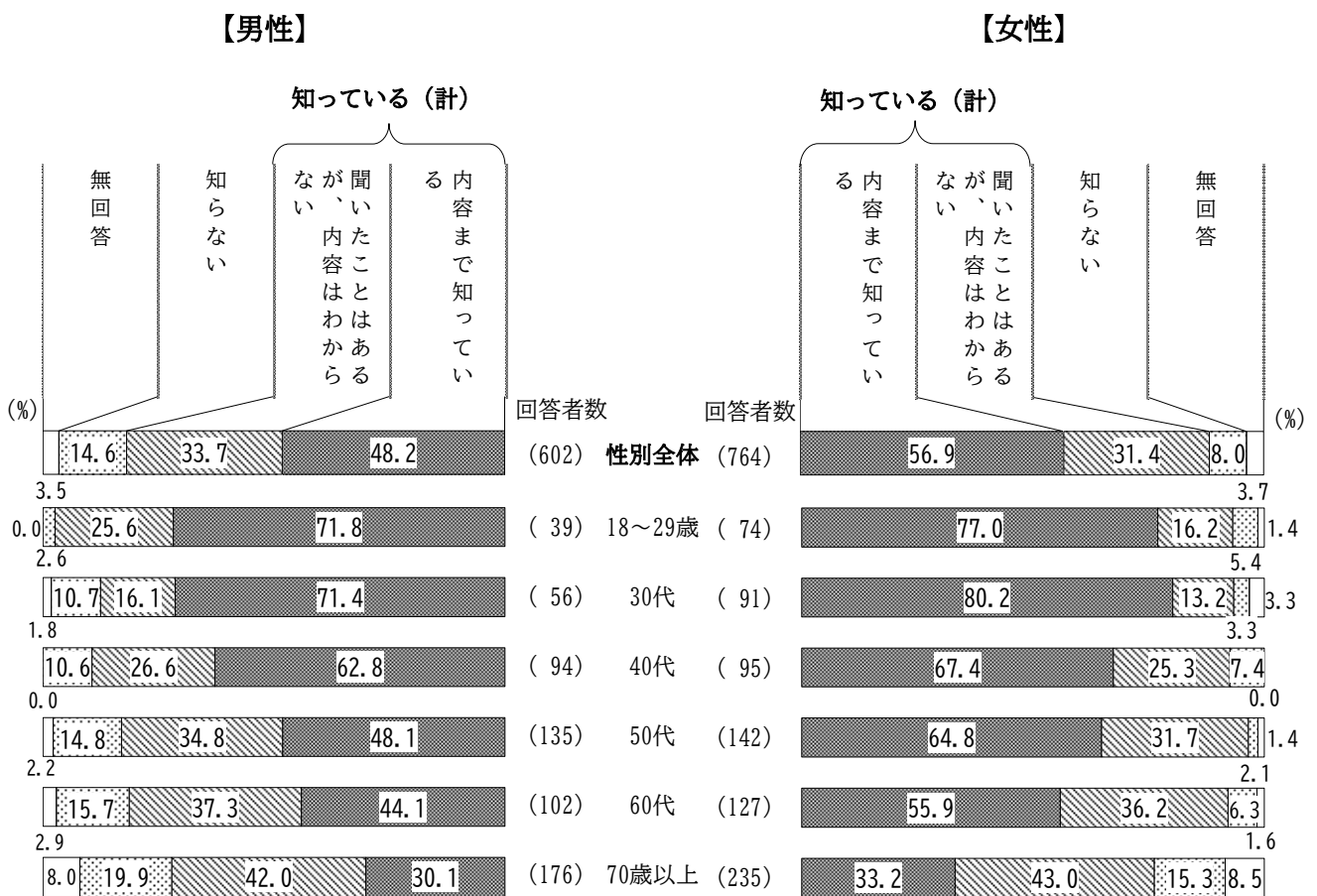
／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について

（ア）身体的暴力以外のDVの認知状況を性別で見ると、【知っている】は女性（88.4%）の方が男性（81.9%）より6.5ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別で見ると、【知っている】は男性の18～29歳で97.4%と最も高く、次いで、女性の50代が96.5%となっている。一方、「知らない」は男性の70歳以上で19.9%と最も高く、次いで、男性の60代（15.7%）、女性の70歳以上（15.3%）が1割台後半で続いている。

図9-8-2-① 性別、性・年代別

／身体的暴力以外のDV（精神的・経済的・社会的・性的）について



ウ クロス集計・性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

(ア) 〈LGBT〉の認知状況を性別で見ると、特に大きな違いは見られない。

(イ) 性・年代別で見ると、【知っている】は男女ともに40代以下で9割前後と高く、女性の18～29歳で93.2%と最も高くなっている。一方、「知らない」は、女性の70歳以上で46.4%と最も高く、次いで男性の70歳以上（36.4%）となっている。

図9-8-2-② 性別、性・年代別／「LGBT」という言葉について

